

## テーマ【凜々子栽培から食育へ】

大阪府 河南町立河内小学校

高井 美恵子 先生

2年生 50名 生活科・図工科

### ■ 実践のねらい：

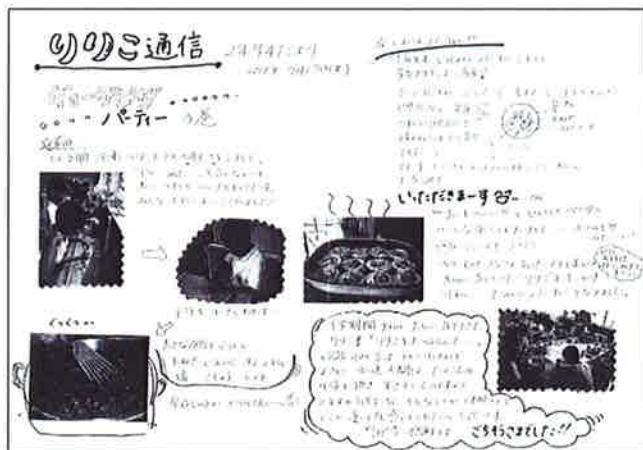
- 栽培活動を通して、食べ物のありがたさや、植物の命をいただいて生きていることに感謝の気持ちを持つ

### ■ 取り組みの概要と流れ：

- 2年生担任となった4月、前任者が申し込んでいた「凜々子」の苗が届くことを知り、急きょ栽培計画を立てることになった。そこで、交流の多い1年生と一緒に、収穫パーティーを行うことをめあてにした。
- 生活科の中で、一人一鉢栽培を行い、生育期は観察記録を行った。子どもたちは「りりこ」という名前に愛着を持ち、自分の「りりこ」を友達のように思いながら、栽培や観察に熱心に取り組んだ。
- 収穫期には、水彩画「りりこのスケッチ」に取り組んだ。“自分が小さくなったつもりで、りりこで遊んでみるとしたら・・・”というテーマを投げかけると、子どもたちから、「ブランコ!」「つなわたり!」「トランポリン!」等たくさんの意見が飛び出し、楽しい絵が出来上がった。スケッチでは、観察記録の時よりも、さらにしっかりと観察することができ、植物への関心も高まった。



- 7月に収穫した「凛々子」を使って、1年生と一緒にギョーザピザパーティーを行なった。パーティーの前日、2年生が皮むきをしてトマトソースを作り、当日は1年生と調理をして、収穫の喜びを味わった。



パーティーのようすは、学年便りや学校HPで保護者に報告



【パーティー後の感想文より（抜粋）】

- ・ ぼくは前からトマトがきれいでした。けど自分のきれいなトマトを食べれるなんて本とうに思ってもいませんでした。
- ・ ぼくはほうちようで切りました。それを見て「りりこかわいそうやな」と思いました。おいしかったけど、りりこはまだ生きていかなとしばいしました。
- ・ わたしたちがたいせつにそだてているりりこがこんなにおいしいなんてしらなかったです。
- ・ 大切にきてきたりりこを、かわをむいて、(中略)やきました。みんなで「いただきます。」そしてごちそうさまでした。おかわりしたかったです。

■ 取り組みによって得られた成果：

子どもたちは加工用トマトがあることを知り、自分たちが育てたトマトを「加工していただく」という経験をすることによって、食べ物のありがたさや、植物の命をいただいて生きていることに気づき、感謝の気持ちがもてるようになった。

■ モグモからのメッセージ：



生活科での観察のほか、調理、他学年交流と、「凛々子」を活用していろいろな活動に取り組んでいるね。これらの取り組みを通して、みんなの「りりこ」への興味や愛情がどんどん大きくなっていったことが、作文からもよ〜く伝わってきたよ！水彩画も、みんなが興味をもって取り組めるような楽しいテーマを設定したことで、みんなワクワクしながら楽しい絵を仕上げた様子が見えよ。